

## 業務実績報告書

提出日 令和 2 年 1 月 21 日

1. 職名・氏名 助教 坂部 敬子2. 学位 学位 看護学修士、専門分野 地域看護学、授与機関 福井県立大学、  
授与年月 平成 26 年 3 月

## 3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
<p>①担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 公衆衛生看護管理実習(2単位)3・4年生:平成29年度 公衆衛生看護学実習Ⅰ(2単位)4年生:平成30・31年度</p>
<p>②内容・ねらい 地域の特性と健康問題・課題について地域診断(学内)を通して理解する。 保健所実習において保健所の役割と機能、公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学内での地域診断では、その過程において学生が知識不足のため出来ないことが多く、教科書や参考書、講義資料に戻って学習するようにした。また、学生が主体的に進めることができるよう事前準備を行い、意欲をもって臨むことができるようなオリエンテーションを行った。地域診断の過程においては、実際に実習に出向いたときに、実習市町の健康課題に基づいた公衆衛生看護活動を理解した上で実習に臨むことができるよう指導に努めた。 実習においては、保健所実習の実習目標が達成できるよう実習計画作成時に実習指導責任者と十分な話し合いを行った。また、学生の実習目標が達成できるよう、実習前、実習中に実習指導責任者との連絡調整を密におこなった。必要時は学生に同行し、学生の見学・体験に細かな助言ができるよう、また見学・体験と講義での学びとがつながるような助言に努めた。学生主体での学生同士のグループワークを必ず取り入れ、他者の考え方をすることで広い視野で物事が捉えられるようにした。実習期間中は、看護職者としてだけでなく、社会人としても主体的で責任ある行動がとれるよう助言した。 保健師課程選択制の実習初年度である平成30年度から、家庭訪問(見学)の記録を変更し、実際に訪問して得られるような学びが確実に得られるよう工夫している。</p>
<p>①担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 公衆衛生看護活動展開実習(3単位)3・4年生:平成29年度 公衆衛生看護学実習Ⅱ(3単位)4年生:平成30・31年度</p>
<p>②内容・ねらい 市町を単位として受け持ち、個人・家族・特定集団・地域全体を視野に置いた公衆衛生看護活動を展開するために必要な能力を養う。地域の健康課題に対する公衆衛生看護活動の展開方法と公衆衛生看護の役割と専門性について学ぶ。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 市町実習の実習目標が達成できるよう実習計画作成時に実習指導責任者と十分な話し合いを行った。連絡調整や企画立案といった見学・体験できない保健師の仕事については、講義等で説明してもらうようにした。また、平成31年度は、公衆衛生看護活動を企画・立案、実施、評価する過程の体験に必要な時間を昨年度よりも確保できるよう、実習指導責任者と十分に話し合った。学生の実習目標が達成できるよう、実習前、実習中に実習指導責任者との連絡調整を密におこなった。必要時は学生に同行し、学生の見学・体験に細かな助言ができるよう、また見学・体験と講義での学びとがつながるような助言に努めた。実習期間中は、看護職者としてだけでなく、社会人としても主体的で責任ある行動がとれるよう助言した。</p>

保健師課程選択制の実習初年度である平成 30 年度から、家庭訪問（見学）の記録を変更し、実際に訪問して得られるような学びが確実に得られるよう工夫している。同様に、健康教育に必要な能力を身につけることができるよう、全員の学生が住民を対象に健康教育の企画・実施・評価を体験できるようにしている。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

公衆衛生看護技術Ⅰ（地域診断）（1 単位）3 年生：平成 29・30・31 年度

②内容・ねらい

公衆衛生看護活動の展開に必要な地域診断について演習を通して知識・技術を習得し、理解を深める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

平成 29 年度は保健師課程選択制の演習初年度であり新たな科目である（昨年度までの公衆衛生看護活動展開論Ⅱの一部）。昨年度までの授業・演習・実習を評価して新たな授業・演習の計画を立て、資料等を作成した。

既存の衛生統計資料や保健医療に関する資料等を図表化・分析する知識・技術について助言し、公衆衛生看護学実習Ⅰにおける地域診断につながる学習となるよう助言した。さらに、学生が実習する市町を理解し、関心が持てるようにした。

平成30年度は、前年度の演習・実習を評価し、また平成31年度の実習日数も踏まえて、学生に身につけてほしい能力をデータの読み取りとアセスメントに絞って演習内容を再考した。

平成31年度は、平成31年度の実習に対する実習指導責任者からの意見を踏まえ、実習の目標・内容を見直すとともに演習の目標・内容を見直す。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

公衆衛生看護技術Ⅱ（個人・家族）（1 単位）3 年生：平成 29・30・31 年度

②内容・ねらい

家庭訪問の目的、家庭訪問による個人・家族支援の実際と技術について理解を深める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

平成 29 年度は保健師課程選択制の演習初年度であり新たな科目である（昨年度までの公衆衛生看護活動技術論の一部）。昨年度までの授業・演習・実習を評価して新たな授業・演習の計画を立て、資料等を作成した。

乳児家庭訪問の事例を用いて、学生が家庭訪問の流れを具体的にイメージする、家庭訪問場面の分析に必要な知識を整理する、事例の家庭訪問対象者の訪問前情報からアセスメントして訪問目的と訪問時に確認してくる事・予測される支援を考える、事例の家庭訪問場面を分析し必要な支援を考えることで、実習で見学する家庭訪問場面での学びがより深まるようにした。

平成 30 年度は、家庭訪問演習の時間配分を一部見直し、アセスメントに十分時間をかけるようにする。また、幼児健診の授業内容を見直し、保健師が健診場面で子どもの発達をどのようにみて判断しているのか、支援の実際について理解できるようにする。

平成 31 年度は、平成 31 年度の実習に対する実習指導責任者からの意見を踏まえ、実習記録を変更するため、これに伴い演習用紙も変更する。また、授業時間中に行っていた乳児家庭訪問・幼児健診に必要な知識の整理を事前学習課題とし、幼児健診の授業時間にあて保健師の幼児健診場面における子どもの発達の判断について理解が深まるように工夫する。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

公衆衛生看護技術Ⅲ（集団・組織）（1 単位）3 年生：平成 29・30・31 年度

②内容・ねらい

集団を対象とした健康教育を実施するために必要な技術を習得する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

平成 29 年度は保健師課程選択制の演習初年度であり新たな科目である（昨年度までの公衆衛生看護活動技術論の一部）。昨年度までの授業・演習・実習を評価して新たな授業・演習の計画を立て、資料等を作成した。

演習開始までに実習施設と調整して実習で実際に行う健康教育の対象・事業・場を決定し、実習と連動した演習を行うこととした。演習では、健康教育の対象・事業・場の理解、健康課題の把握、健康教育の目的・目標の設定、媒体の検討までを行う。

平成 30 年度は、演習の中でグループワークを行う時間を多くした。

平成 31 年度は、昨年度を振り返り、机上で行う健康教育の対象理解の進め方について見直す。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  
卒業研究（3 単位）4 年生：平成 29・30・31 年度

②内容・ねらい  
科学的思考力を養い、自ら探求する態度と研究能力の基礎を身につける。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫  
今後、学生が研究に取り組む際に必要な基礎的な能力が身につくよう指導した。特に、平成 31 年度は、これまでよりも倫理的配慮・倫理審査に関することの説明・指導を丁寧に行った。

学生が明らかにしたいと考えることを大事にし、学生が主体的に行えるよう関わった。統計について、学生に分かりやすく指導ができるように準備した。

また、指導の際は、学生が研究の大変さだけでなく楽しさも感じられるように関わった。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  
基礎看護学実習Ⅱ（2 単位）2 年生：平成 29 年度

②内容・ねらい  
対象の個別に即した看護を認識し、計画的に看護を実施、評価するという看護過程を展開するための基本的能力を習得する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫  
それぞれの学生が担当ナースや受け持ち患者とコミュニケーションがとれているかに気をつけ、必要な学生には助言するようにした。日々のグループカンファレンスは、学生同士のディスカッションを中心に進め、学生同士が学びを共有し、また自分で考え、相手に伝える訓練の場になるようにした。初めての看護過程の展開であるので、学びや達成感を感じることで、看護に楽しさや感動が得られるように関わった。なぜ、そのように考えたのかを振り返ることができるように関わり、看護過程を展開できるようにした。また、看護師に自分の考えを伝えて看護実践の許可を得ることや報告・連絡をきちんと行うことができるように支援した。

## (2)非常勤講師担当科目

①担当科目名（単位数） 開講学校名

②内容・ねらい（自由記述）

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

④本学における業務との関連性（自由記述）

## (3)その他の教育活動

内容

#### 4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①論文 (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所について)、掲載雑誌名(号数)、掲載(受理)年月日) 1) 市町村保健師の専門能力の評価尺度の開発, <u>坂部敬子</u> 、中谷芳美, 福井県立大学紀要 2017, 49, 45-57
②著書 (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ)、出版年、出版社名)
③学会報告等 (タイトル、報告学会(大会)名(開催年月日)、共同報告者の有無(共同報告の場合は主たる担当箇所)) 1) 介護予防を推進する地域包括ケアシステム構築に向けた現状と課題ー互助グループへのインタビューからー. 日本地域看護学会 第21回学術集会(2018年8月11日)、 <u>坂部敬子</u> 、中谷芳美. 2) 介護予防を推進する地域包括ケアシステム構築に向けた地域在住高齢者の現状と課題. 第77回日本公衆衛生学会総会(2018年10月25日)、 <u>坂部敬子</u> 、三好良子、中谷芳美. 3) 地域で生活する高齢者のソーシャル・キャピタルと生活満足感との関連. 第38回日本看護科学学会学術集会(2018年12月15日)、中谷芳美、 <u>坂部敬子</u> . 4) 地域で生活する高齢者の主観的健康感と保健事業の認知・利用・満足感、健康習慣との関連ーソーシャル・キャピタルを調整してー. 第7回日本公衆衛生看護学会学術集会(2019年1月26日)、中谷芳美、 <u>坂部敬子</u> . 5) 介護予防を推進する地域包括ケアシステム構築に向けた課題ー自助、互助、共助・公助へのフォーカス・グループ・インタビューを用いて. 第7回日本公衆衛生看護学会学術集会(2019年1月27日)、 <u>坂部敬子</u> 、中谷芳美. 6) 地域で生活する高齢者による介護予防支援・生活支援の実施状況とソーシャル・キャピタルとの関連. 日本地域看護学会 第22回学術集会(2019年8月18日)、中谷芳美、 <u>坂部敬子</u> 、梶田悦子. 7) 介護予防を推進する地域包括ケアシステム構築に向けた課題ー公助・共助の声からー. 第78回日本公衆衛生学会総会(2019年10月24日)、 <u>坂部敬子</u> 、中谷芳美. 8) 地域で生活する高齢者の健康づくり・介護予防のボランティア活動意欲と関連する要因. 第78回日本公衆衛生学会総会(2019年10月24日)、中谷芳美、 <u>坂部敬子</u> 、梶田悦子. 9) 地域で暮らしている高齢者がその人らしい健康な生活を送るために実践していることー量的調査と質的調査の結果を統合した混合研究法による考察ー. 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会(2020年1月11日)、中谷芳美、 <u>坂部敬子</u> .
④その他の公表実績
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動 (担当報告名、担当学会(大会)名(開催年月日))
学会での役職など (学会名)
学会・分科会の開催運営 (担当学会(大会)名(開催年月日)、開催場所)
(3)研究会活動等
①その他の研究活動参加 (参加研究会名、調査活動名(期間))

②その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
1)平成 29～31 年度 基盤研究 (C) (一般) : 研究分担者
(5)特許出願

## 5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会 (それぞれの名称、業務内容、担当期間)
②国・地方公共団体等の調査受託等 (それぞれの名称、業務内容、活動期間)
③ (公益性の強い) NPO・NGO 法人への参加 (それぞれの名称と活動内容、活動期間)
④ (兼業規程で業務と見なされる範囲内での) 企業等での活動 (企業名、活動内容、活動期間)
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 (事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間)
⑥その他 (名称、活動場所、活動期間) ・第 30 回福井県母性衛生学会の実行委員、福井県立大学、平成 29 年 6 月 18 日 ・平成 30 年度開放講義 (大学出張講座)、福井県立金津高校、平成 30 年 11 月 16 日
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
①公開講座・オープンカレッジの開講 (タイトル名、開催場所、開催日時)
②社会人・高校生向けの講座 (タイトル名、開催場所、開催日時)
③その他 (名称、活動場所、活動期間)
(3)その他 (個人の資格で参加している社会活動等) (活動内容、主たる活動場所、活動期間)

## 6. 大学の管理・運営

(1)役職 (副学長、部局長、学科長) (職名、期間)
(2)委員会・チーム活動 (名称、期間) 看護学科実習検討委員会 : 平成 29 年度 看護学科 1 年生副担任 : 平成 29 年度 看護学科 2 年生副担任 : 平成 30 年度 看護学科総務係 : 平成 31 年度 看護福祉学部情報処理演習室管理担当 : 平成 31 年度 看護協会施設代表者 : 平成 31 年度

(3)学内行事への参加

(行事名、参加日時)

- ・福井県立大学 2018 オープンキャンパス “大学の講義を体験してみよう！”
- ・大学訪問当日に行われた看護福祉学部棟見学での公衆衛生看護学実習室・資料の準備  
(星稜高校：平成 30 年 10 月 22 日)  
(鯖江高校：令和 1 年 10 月 25 日)

(4)その他、自発的活動など

(活動名、活動内容、活動期間)

- ・高校入試説明会 (敦賀高校)：平成 29 年 7 月 5 日